

国家崩壊や異国の地など困難な状況下で懸命に生きる人々の姿を追い続けてきたオランダの女性映画監督ミリアム・ファン・フェイレンさん(43)の写真が、横田めぐみさん(当時十三歳)拉致事件を題材にしたドキュメンタリー映画の制作準備を新潟市で進めている。フェイレンさんは「残酷な拉致事件の現実に向かってくる被害者家族の姿を多くの人に見てもらいたい」と話している。

映画制作のきっかけは、二〇〇二年九月の日朝首脳会談を報じた母国の新聞記事。拉致事件の存在すら知らなかったフェイレンさんは、「長年にわたって家族が引き裂かれているにもかかわらず、政治的な問題から解決が困難なこ

## 拉致の現実知らせる ドキュメンタリー

# めぐみさん事件の 映画制作準備中



●オランダ人女性監督

の事件は他に例を見ない」と、拉致事件に関心を持った。

事件を詳しく知ろうと初来日した昨年秋、横田滋さん(71)、早紀江さん(68)夫妻との

面会する機会を得た。娘との再会を信じ、厳しい状況に立ち向かいながら懸命に生きてきた二十六年間を聞き、「この生き様を伝えたい」と、映画の撮影を決意したという。

フェイレンさんは今月十日に再来日し、めぐみさんが在籍していた小学校を訪ねたり、「救う会新潟」の関係者から話を聞いたりするなどの取材を始めた。きょう十九日には北朝鮮の貨客船「万景峰92」号の入港風景を取材する予定だ。

その後、一度帰国してシナリオを練った上で十月に再度来日して撮影を始める。約一時間の作品で、来年夏の完成を目指す。フェイレンさんにとっては五作目の映画制作。完成後は、各国のテレビ局に放映を働きかけるほか、ヨーロッパ最大の記録映画の祭典「アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭(I D F A)」にも出品したいという。